



意欲的な姿勢で授業に臨む城北生



生徒の質問に笑顔で答える坂本先生

明日に伸びる！この1校

城北中学校 高等学校

東京
男子校



英語科
坂本悦子先生

将来使うことを想定し 実践的な英語力を育む

- ◆住所：東京都板橋区東新町2-28-1
- ◆アクセス：東武東上線「上板橋駅」徒歩10分、
地下鉄有楽町線・副都心線「小竹向原駅」徒歩20分
- ◆TEL：03-3956-3157(代) ◆URL：https://www.johoku.ac.jp/

すプログラムとして、昼食をともにする「インターナショナル・テーパー」、英語でプレゼンテーションやディベートを行うことを目標とする「イングリッシュ・シャワー」があります。なかには部活動に参加するネイティブ教員もおり、交流する機会が豊富です。

「普段生徒が取り組んでいる小テストや定期テストには正解があります。しかし海外研修で現地の方と交流する際は、絶対的な正解があるのではなく、自分の言葉に対して相手からの反応がどう返ってくるかが答えであり、また、そこで会話を止めずに懸命に応え続

り、オーストラリア語学研修では、例年現地の学生と交流を行っています。また、4カ国から行き先を選べる3カ月のターム留学にも挑戦できます。今後は、マンツーマンの英会話レッスンを受けられるフィリピン・セブ島の新たなプログラムも始まる予定です。

「普段生徒が取り組んでいる小テストや定期テストには正解があります。しかし海外研修で現地の方と交流する際は、絶対的な正解があるのではなく、自分の言葉に対して相手からの反応がどう返ってくるかが答えであり、また、そこで会話を止めずに懸命に応え続ける」

「最終的な目標は、英語を母語とする方々と同じように理解し使うことです。そのため読解においても、英文をパズルのように分解するのではなく、文の初めから順に意味を取るよう指導しています。英作文の添削にも力を入れ、修正する際は丁寧に理由を書いて、生徒が次に活かせるようにしています。大学受験に向けた英語力を養うことも大切ですが、それだけでは不十分です。将来使うことを想定して学ぶ必要があります。ですから、文法的に正しくなければ問題ないと思えるのではなく、

城北中学校は、生徒個々に寄り添うきめ細やかな教育を展開する学校です。そのなかから英語教育についてご紹介します。

**何度も繰り返し
身体にしみ込ませる**

生徒の成長に即した指導を行う城北中学校（以下、城北）。英語教育においては、まず基礎期（中1・中2）に文法などの知識をしっかりと身につけ、多くの英文を聞き実際に発声することで英語に慣れていきます。例えば中1の授業では、教員が話す英文を座ったまま繰り返す→立って2回声に出したから座る→列ごとに前から順番に読む→ペアを作りお互いに音読→リピート→教員が話す日本語を英訳して発音する……といったように、様々な形式で生徒の発声を促しています。

英語科の坂本悦子先生は「意識しているのは、生徒が飽きないようになんとかよく授業を行うことです。なるべく全員が一度は個人発声をしてほしいので、大量の1問1答クイズをモニターに表示し、1人ひとり順番に答えさせたりもしています。教科書を見ながら読

んでいた英文が、自然と口をついて出るようになる、そんな授業をめざしています」と話されます。

もちろん読む、聞く、話すの3技能のみを重視しているのではなく、教員が話す英文を書き取るなど、1回の授業で4技能すべてに触れられるよう配慮されています。

城北にはネイティブスピーカーの教員（以下、ネイティブ教員）が7名おり、中1から週に1コマ、日本人教員とのチームティーチング（TT）の時間が設けられています。高2ではネイティブ教員のみが担当する授業もあります。

「外国にいるような時間を過ごしてほしい」との思いから、ネイティブ教員が参加する授業はすべて英語で進められます。入学当初は緊張していた中1も、ゲームやクイズなどのレクリエーションを通じて、すぐに表情が和んでいくそうです。「生徒はネイティブ教員が紹介する出身国についての話にも興味津々です。私の授業で助動詞canを扱う時は、TTの授業でもcanを使うゲームをするなど、連動した授業になるよう協力しています」と坂本先生。

そのほかネイティブ教員と過ご

※「中学受験 サクセス12 7・8月号2021」より転載